

平成23年度 防犯システム委員会活動

『地域セキュリティ創出の手法』

～あなたのまちの安全対策～』制作

公益社団法人 日本防犯設備協会 防犯システム委員会 委員長
(株式会社リスダンケミカル)

吉田 啓一



I 防犯システム委員会の活動経過

平成17年6月犯罪対策閣僚会議において『安全・安心なまちづくり全国展開プラン』が示された。プランは、地域ボランティア活動の活性化を促す「住民参加型のまちづくり」、住居・施設・弱者を守る「住まいと子どもの安全確保」、匿名性の高い不特定多数の人々が集う場所の健全化を目指す「魅力あふれる繁華街・歓楽街の再生」、の三章から成っている。

防犯システム委員会では平成17年度以来、同プランに示されている行動指針の各論を年度毎の調査・研究の対象に定め、その結果を下記の如く委員会活動の成果物として全国の警察及び行政を含む防犯関係団体・機関を通じ広く国民に提供してきた。

- 1) 冊子「ホームセキュリティガイド」
- 2) WEB版「ホームセキュリティガイド」
…日本防犯設備協会ホームページに掲載
- 3) DVD「防犯対策新時代」
…戸建・共同住宅を対象としたホームセキュリティガイドのビジュアル版
- 4) 報告書「地区レベルでの防犯診断手法確立に向けた実証研究」
…独立行政法人建築研究所との共同研究
- 5) DVD「学童の安全確保のための防犯・防災対策」
…モデル校を対象に問題点の分析と必要とされるセキュリティ対策の提案
- 6) DVD「ちょっと待った！泥棒…」
…東京都シルバーピア事業の紹介を含む高齢者の暮らしを守る安全・安心対策
- 7) DVD「もっと楽しく、快適に！笑顔ひろがるまちづくり」

…札幌市ススキノ・狸小路での実情を例に繁華街・歓楽街における防犯カメラ設置及び運用・管理に関する解説

因みに、平成19年度制作のDVD「防犯対策新時代」以来、防犯システム委員会活動の成果は毎年DVDとして取りまとめ広く国民に提供しているが、いずれも財団法人日本宝くじ協会より社会貢献広報事業との認定を受け給付される助成金により制作されたものである。

この足掛け6年に及ぶ調査・研究を通じ、共同住宅・学校・歓楽街等々を対象として適切と思われる出入管理・防犯カメラ・照明等の防犯機器・システムの紹介及びこれらの運用・管理についても多々言及してきた。

しかし、これら防犯機器・システムを有効に機能させ活用すると同じくらい、場合によってはそれ以上に、防犯環境設計で謂うところの『領域性の確保』即ち「気に入っている我々のまちと仲間は我々の手で守る」という地元住民の思いが重要であることを、現地での調査を通じ常に痛感致していた次第である。

II 平成23年度の活動

懸かる背景により、平成23年度では『安全・安心なまちづくり全国展開プラン』に則り平成17年度以来継続実施してきた対象毎の防犯対策の調査・研究の成果を、従前同様日本宝くじ協会の社会貢献広報事業との継続認定の下、タイトル『あなたのまちの安全対策』の冊子として取りまとめ、主にソフト面より「地域セキュリティ創出の手法」として解説を施している。

地域セキュリティ創出への取り組みには、地域住民全員の視点を反映させた地域全体を網羅する『危険箇所マップ』作成に目標を定めた作業手順とすることが望ましいと結論付けた。『危険箇所マップ』作成には、住民構成・地域属性・過去の犯罪発生等の分析による「地域の概要把握」、地域住民の幅広い意見を集約する「住民アンケート」、更に現場での実測による照度及び通行量を含む交通関係の「実地調査」が必要となるが、冊子ではこれらの作業を如何に進めるかについての具体的な手法を提示している。

特に「住民アンケート」実施に関しては、個人情報保護に配慮した実施方法についての留意点と併せ設問内容を例示した。懸かる地域の現状把握の手法には、平成18-20年に独立行政法人建築研究所と日本防犯設備協会が実施した共同研究『地区レベルでの防犯診断手法確立に向けた実証研究』により得られた知見も多く反映されている。

尚「危険箇所マップ」は、防犯のみならず防災の観点、即ち自治体が公示するハザードマップ、緊急避難場所・避難ルート等にも考慮したものとすることを推奨している。

また防犯対策の具現化について、行政・警察と地域活動団体等民間組織との関わりに言及。行政・警察主導の例として「CP部品」「防犯優良マンション認定制度」、行政・警察と民間による連携が「学童の安全確保」、民間主体で行政・警察の支援の例が「繁華街・商店街の安全対策」、の如く各々例示した。

加えて、既成の居住地区におけるセキュリティ対策への参考とすべく、自治体・大手住宅デベロッパー等より成る事業体が開発した最新のセキュリティサービスを提供する新規大規模居住地区の実態を紹介。ここでは住民アンケートを基に、人々が求めるのは、最新の機器・システム及びサービスによる安全且つ快適な生活環境の整備にも増して、長年に亘る近所付き合いから生まれる地域コミュニティであることも示した。

地域セキュリティとは、防犯のみならず防災・福祉・環境保全・教育等を含め安全・安心に暮らせる環境の整備にあると定義し、今後の課題として異常事態発生時に地域住民の安全を守るのに必要な情報を的確に伝える地域情報伝達インフラの整備への平常時から取り組みを挙げている。具体的には現在市町村程度の狭いサービス範囲を対象に開局が認められているコミュニティFM局の全国的な普及である。

地域情報を共有するために自治体も経営・運営に加わっての地域密着型の情報媒体を持つことは、震災時の対策はもとより、平常時においてもコミュニティ形成に果たす役割は大であろうと提言している。

Ⅲ 冊子「あなたのまちの安全対策」活用について

冊子は、地域で防犯活動に従事する団体等を通じ、住民同士の付き合いが活発なコミュニティ形成に尽力されている人々に広く活用頂きたいとの委員会の意向を添え、全国の都道府県警察本部及び防犯設備士より成る全国の地域協会へ配布している。

併せ内容が、防犯対策の対象場所として住宅・商店街・公園、対象者として学童・高齢者、解決すべ



あなたのまちの安全対策冊子

き課題として交通・法制・情報、等々多岐に亘っていることより、住宅・教育・道路・福祉等々関係の行政部局を通じて広く国民に活用願いたいとの委員会の意向である。

Ⅳ 今後の委員会活動予定

前述の如く、平成23年度では主にソフト面より「地域セキュリティ創出の手法」を論じているが、来年度以降では安全対策を施す場所を公園・駐車場・商店街等々に定め、場所毎に危険度の現状を把握するチェックシートの例示、場所に応じた最適な防犯機器の仕様及びシステム運用・管理の例示、即ち本年度版の続編として、当協会の業務部各委員会が行っている調査・研究の最新の成果を反映させた『ハード編』の制作を検討している。